

「愛知県その道の達人」派遣事業 実績報告書

達人名	加藤 三保子 先生 (手話の達人)
実施校	一宮市立大和東小学校
実施日	平成20年11月14日(金曜日)
実施学級	5年1~4組(122人) <2クラスずつの授業を2回>
授業の実際	<p>1 耳の不自由な人についての学習することを伝える。</p> <p>2 達人の紹介をする。</p> <p>3 耳の不自由な人とのコミュニケーションの方法を考えさせる。</p> <p> 耳の不自由な人に感謝の気持ちを伝えたり話をしたりするためにどんな方法があるか質問し、考えさせる。</p> <p> 口語、ジェスチャー、空文字でカードの言葉を伝えさせる。</p> <p> 本当の手話を達人に行ってもらおう。</p> <p>4 達人に、耳の不自由な方の普段の生活の様子や、どんなときに困るか、健常者に心に留めてほしいことなどを語っていただく。</p> <p>5 「どうかしましたか」の手話を覚えさせる。</p> <p>6 まとめをし、お礼の言葉を述べる。</p> <p> バリアフリーという言葉の2つの意味を知らせる。</p> <p> (1)「障害のある人や、お年寄りが安心して暮らしていくのを妨げるバリアを取り除く」</p> <p> (2)「障害のある人とない人たちの間の壁をなくす」</p> <p> 少しでも手話を覚えるということは、耳の不自由な人とのバリアを取り除くことにつながるということを確認する。</p>
児童の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・耳の不自由な人を助けたいと思った。 ・手話ができるようになったら、耳の不自由な人と手話で話してみたい。 ・手話ができるようになりたい。 ・クローバーマークについて、初めて知った。 ・障害者のための機械などがあることを知った。
教師の感想	<p> 達人の巧みな話術に子どもたちが引きつけられる、楽しい雰囲気での授業であった。達人による見事な手話を目の当たりにして、子どもたちの手話に対する関心は一気に高まった。障害のある人たちの苦勞、それを克服するための工夫、健常者に心に留めてほしいことなど、実際の生活に即した具体的な話は達人であるからこそできるものであり、子どもたちの障害に対する意識・理解を高めるためにとっても有効であった。今後も障害のある方々の生の声を子どもたちに届けられるような機会が設けられたらと思う。</p>

